

現場見学会のおしらせ

今年度、地区内では14棟の建物が完成あるいは建築中です。これらの工事の様子を直接見て、皆さんの建替え計画に役立てていただきたく、今年も現場見学会を開催します。どなたでも参加できます。おさそい合わせの上、おでかけください。

日 時：昭和61年11月8日(土)

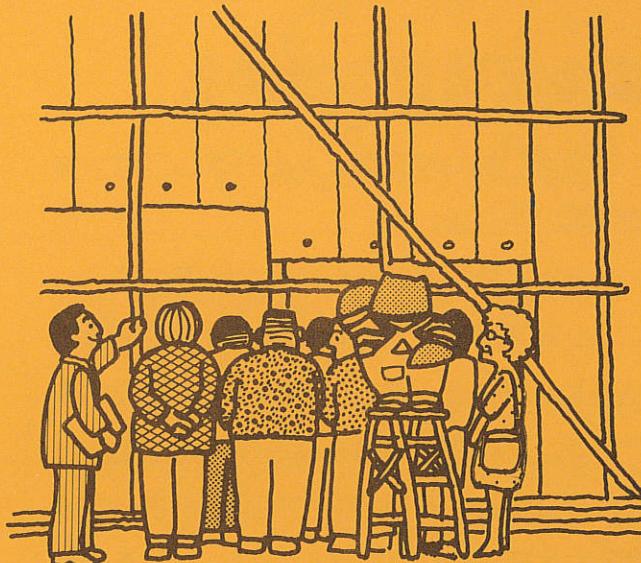
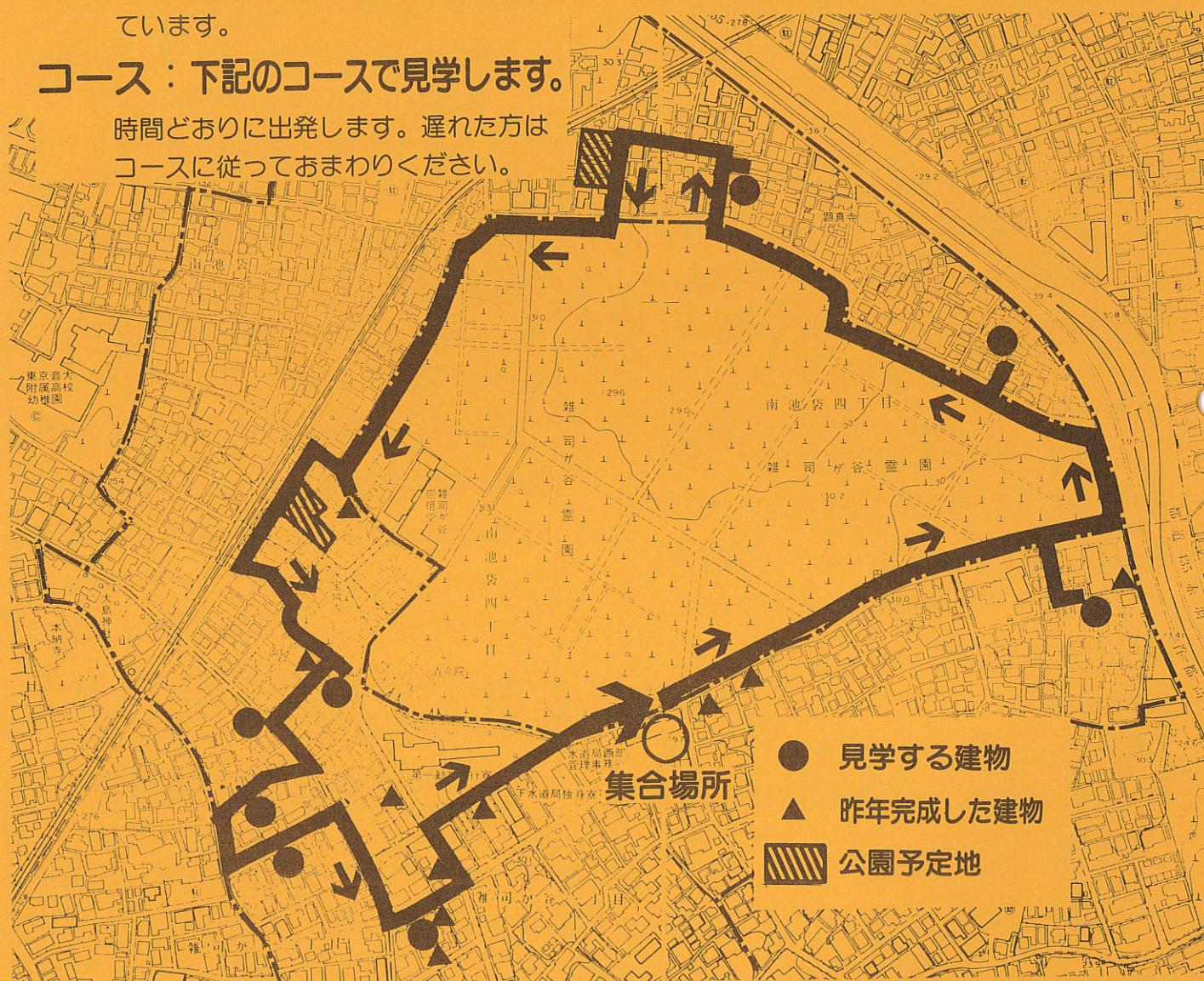
午後2時～4時

集合場所：雑司が谷区民集会室 2時出発

区民集会室では建替え相談所を開催しています。

コース：下記のコースで見学します。

時間どおりに出発します。遅れた方はコースに従っておまわりください。



雑司が谷墓地周辺地区

街づくりニュースNO.17

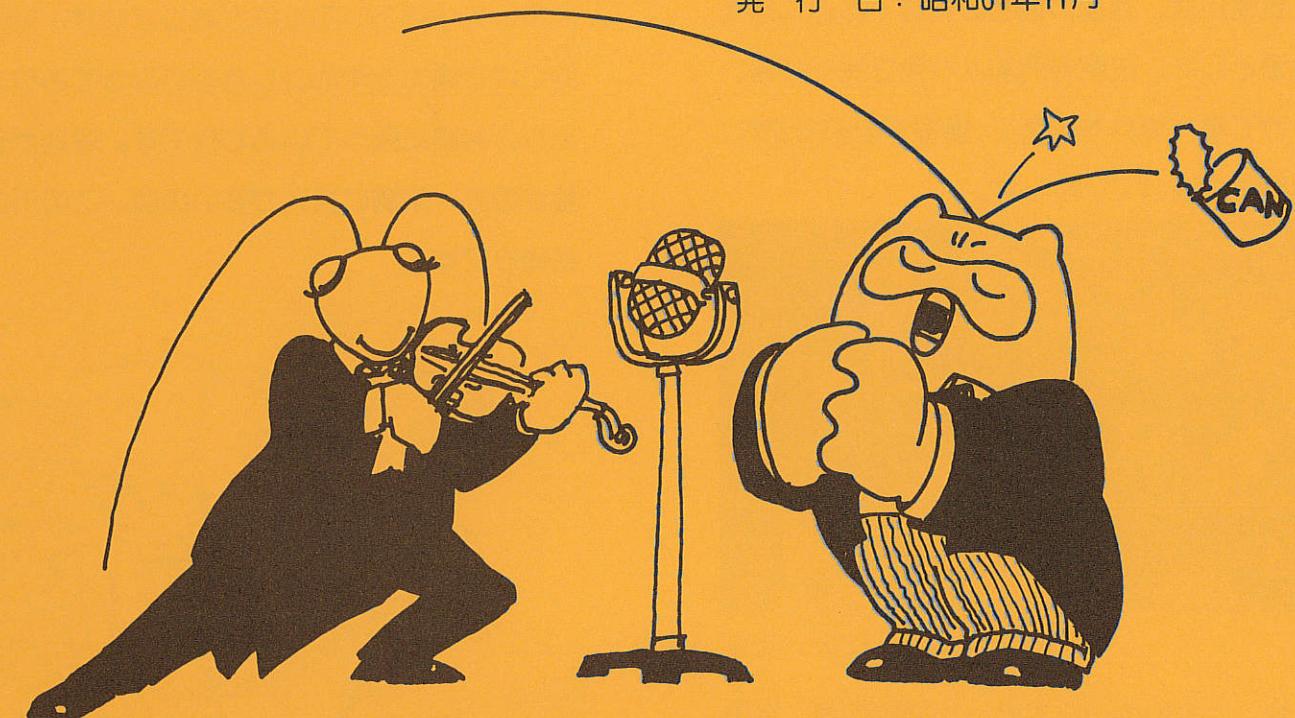
災害につよい まち をめざして

企画・発行：雑司が谷地区不燃化促進協議会

豊島区都市整備部住環境整備課

編集協力：財団法人 都市防災研究所

発行日：昭和61年11月



墓地の緑に秋の色

秋、11月。実りの秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋。いろいろな秋がありますが、皆さんの秋はどんな秋でしょうか。

天高く馬肥ゆる秋とか言いますが、雑司が谷のまちづくりも秋の空に向かって大きく育てていきたいものです。

今回のまちづくりニュースでは、今は失われた雑司が谷の川「弦巻川」についてお知らせします。まちの中から、親しめる水辺がどんどん失われてきていますが、雑司が谷の名の起りにもなっているこの川について、もう一度ふりかえってみたいと思います。

● 豊島区都市整備部住環境整備課 TEL 981-1111 内線(2862)／担当：深尾、山木、石川、大野、上野

● (財) 都市防災研究所 TEL 595-1545／担当：小川、重川、斎藤、小野／発行部数2,000部

むかしの雑司が谷

昔、川ありき…弦巻川

名前の由来は源義家

弦巻川は、池袋の地名の発祥である丸池を水源として、法明寺門前より清立院へ続き、やがて東へ流れを変えて、護国寺の前を流れ、神田川に注いでいました。



池袋の地名の発祥・丸池

昔、この川の辺りで戦った源義家が、弓の弦を巻き直したというところから、弦巻川と呼ばれるようになったと言われています。源義家といえば、八幡太郎義家として有名ですが、奥州の後三年の役を鎮圧し、源氏の台頭の礎をつくった人。11世紀・平安時代の後期に活躍しました。弦巻川の名は900年の歴史があるのです。



②

雑司が谷には、昔、川が流れていました。その名を弦巻川。今は姿を消して面影もありませんが、その流れをたどってみましょう。

下の地図は明治13年のものです。当時の川の流れがわかります。雑司が谷の名の由来についてはいろいろな説がありますが、地形的には弦巻川を中心とした谷となっており、それが名前に残っているわけです。雑司が谷墓地の西～南側に坂道が多いのは、この川の名残りです。



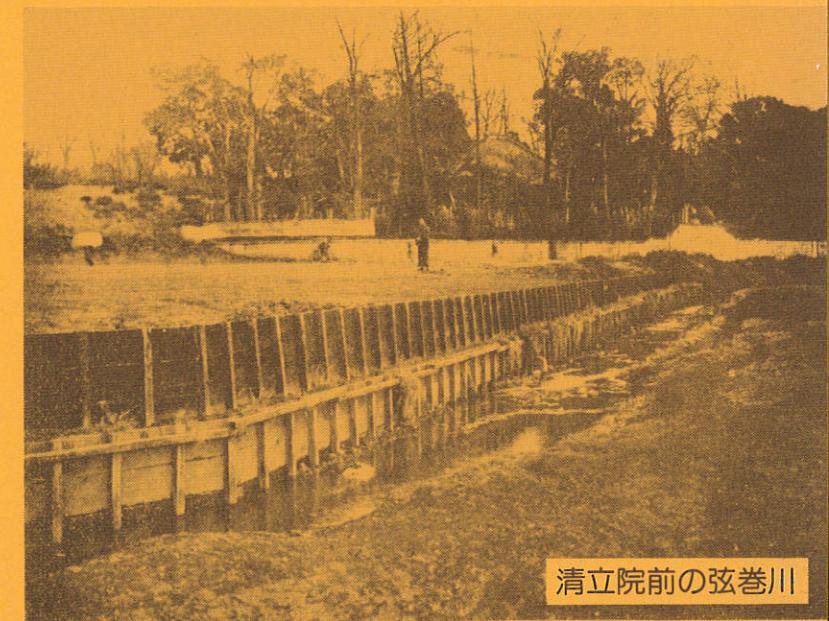
③

大久保彦左衛門も愛でた風景

さて、地図で雑司が谷墓地の南西側の所は、江戸時代には大久保彦左衛門の下屋敷だった所です。大久保彦左衛門といえば、家康、秀忠、家光の三代に仕えた旗本ですが、天下の御意見番として、一心多助と共にテレビですっかりお馴染みの人です。伝えられる逸話は史実ではないとのことですが、それはさておき、神田駿河台に上屋敷を構え、雑司が谷に下屋敷を持っていました。

当時、この辺りは江戸の郊外で、鬼子母神は御参りの客で賑わっていました。いわば郊

外観光地だったようです。そこに別荘として下屋敷を持っていたのです。



清立院前の弦巻川

さて、弦巻川の流れは、一旦屋敷の中に入り、池に注いでいたようです。

川幅は2間(3.6m)程度でしたが、夏は螢、秋は月など四季いずれも趣のある所で、彦左衛門はここにこの地の風景を愛で、池の辺に茶室を設け、しばしば茶会を催したと言われています。屋敷跡には、今も徳川家光のお手植えと伝えられる椎の大樹が残っています。



徳川家光お手植えの椎

昔の面影はほとんどなくなりましたが、わずかに、現在の第一勧銀寮付近には、当時からの木々が残っており昔の様子が偲ばれます。

④

時代の流れと共に

このように美しい流れだった弦巻川も、時代の移り変わりと共に、次第にその姿を変えていきます。

清立院の辺りはアシの茂る湿地となっていましたが、周辺の耕地化が進むと共に埋め立てられ、川幅も次第に狭くなっています。



弦巻川の暗渠工事

公図に残る川の跡…？

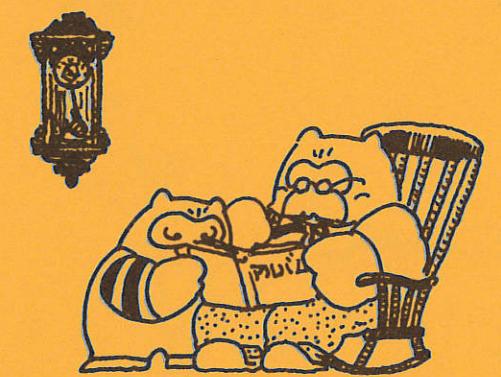
弦巻川は、暗渠となって弦巻通りの下を流れていますが、公図上は宅地の部分に水路の線が残されています。先般、この水路にかかる敷地で、古い公図の確認をしたところ、地番が付されており、所有者の宅地であることがわかりました。

御自分の敷地の公図に水路敷の線が入っている方は、右の手続きをして、宅地として正しく登記されているか確認してください。

さらに関東大震災後、池袋の発展に伴って宅地化の波が弦巻川をのみ込みます。

昭和15年ごろ、大久保彦左衛門下屋敷を引き継いだ長州の吉川家の屋敷が区画を整え、宅地として販売されていますが、それに先立ち川の暗渠工事が行われ、現在の弦巻通りの下に下水道管が埋設され、川は全くその姿をなくしてしまいました。

こうして、雑司が谷から川の風景がなくななり、既に半世紀が過ぎようとしています。地元のお年寄りの方々は、子供の頃、川で遊んだ記憶を語ってくださいますが、この思い出を土地の記憶として後世に語り継いでいきたいものです。



①法務局豊島出張所(豊島地方合同庁舎・池袋4丁目)に行き、古い公図(明治時代のもの)により、地番の有無の確認をします。

②地番が付されている場合は、「地図訂正申出書」を上記の場所に提出して公図の訂正を行ってください。

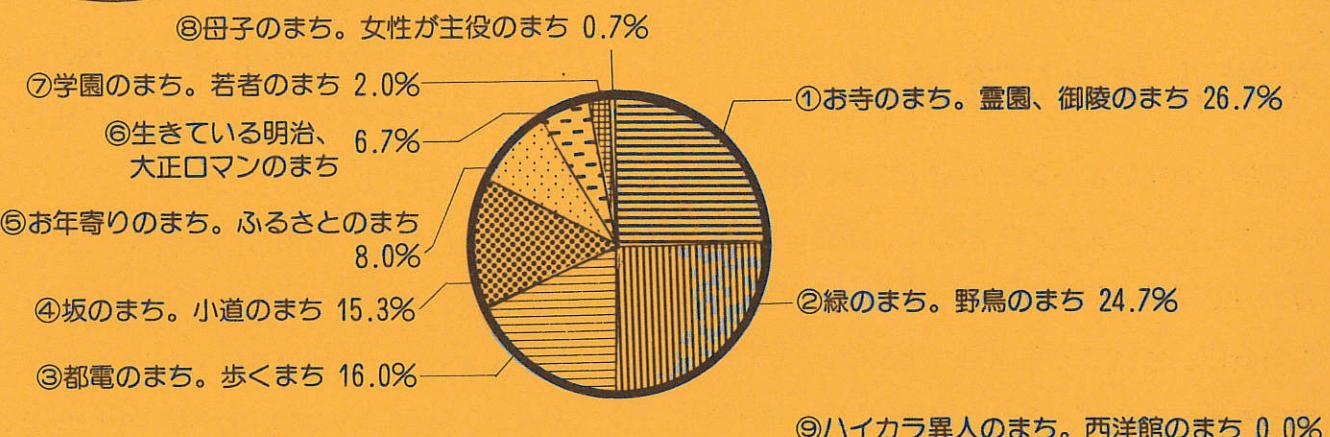
③申出書には、訂正前の公図と訂正後の公図をつけることが必要となります。

地域の皆さん まちのイメージ が選んだ

- 前回のまちづくりニュースで、酒井憲一さんの講演会「縁と歴史のまちづくり」の様子をお伝えしましたが、その中で酒井さんのイメージする雑司が谷が9つの言葉で表現されました。そのイメージを大切にして、これから雑司が谷のまちづくりを進めてほしいというのが、酒

井さんからの伝言だったのではないでしょうか。

そこで、会を主催された方々は、地元の皆さんに声をかけあって、9つのイメージの中から最もふさわしいと思うものを選ぶアンケートを行いました。その結果をご報告します。



アンケートには、76人が回答を寄せられています。最も多い答えは、「お寺のまち。霊園、御陵のまち」でした。また、ほぼ同数で「緑のまち。野鳥のまち」があげられています。共に約1/4ずつの回答となっており、墓地やその他のお寺、そこにある緑というものが、いかにこの地区のイメージに大きな影響を与えるかがわかります。続いて多いのは、「都電のまち。歩くまち」と「坂のみち。小道のまち」で、共に15~16%の回答となっています。

ます。これらは共に、道路や都電といったまちの構造としてのイメージの強さを表しています。

以下、「お年寄りのまち。ふるさとのまち」「生きている明治、大正ロマンのまち」と続きますが、全く人気のなかったのは「ハイカラ異人のまち。西洋館のまち」「母子のまち。女性が主役のまち」「学園のまち。若者のまち」で、住んでいる人のイメージとの違いがはつきりと現れています。

今回のアンケートは、雑司が谷1丁目の方々を中心に行われたものですが、皆さんのイメージする雑司が谷と同じ意見だったでしょうか。ここで選ばれた「お寺のまち、霊園・

御陵のまち」あるいは「緑のまち、野鳥のまち」をこれからまちづくりの合言葉として、さらにまちのイメージづくりを進めていきたいものです。

建替え感想文特集

不燃化促進事業が始まってから3年。既に20世帯の方々が不燃化による建替えを行われています。区ではご協力いただきました方々に、完成後の感想を一筆お願いしてきました。ご回答いただきました中から一部をご紹介しましょう。

不燃化参加に充実感

最初、道路による敷地の縮小に軽い抵抗を感じましたが、完成して始めて、道路の拡張がいかに避難に重要かという実感と、区の防災方針にいささかでも協力が出来たという充実感を得ています。これも職員皆様方の御懇意な御指導のおかけと感謝致して居ります。

苦労したことと申しますと、建築費が普通の場所より高額だった事で、その費用が助成金で貰い切れなかつた事です。

分かつたことは、何年か先に道路の拡張に依る安全さが判明することです。

適切なアドバイス、迅速な対処を心から御礼申し上げます。

これから建替え相談所の日程

南池袋区民集会室

(偶数月第2土曜日)

午前10時~12時

午後1時~4時

12月13日

2月14日

雑司が谷区民集会室

(奇数月第2土曜日)

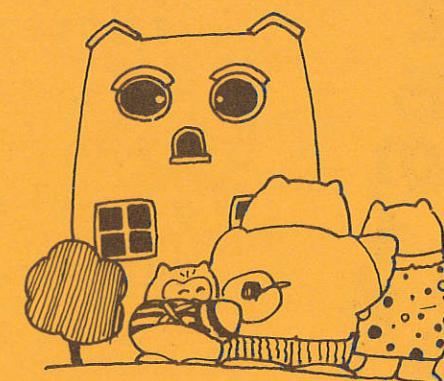
午前10時~12時

午後1時~4時

11月8日

1月10日

3月14日



参考になった相談所

この度は、不燃化担当の皆様方の御指導をいただきましてマンション完成に至りました。誠にありがとうございました。

建替えにあたり高額な助成金をいただきまして、それだけでも大変ありがとうございました。そこで、工事着工にあたり2、3問題が出ましたが、毎月相談所がありましたので、そのつど御相談させていただきました。そして長時間にわたり親身になって御回答、アドバイスをいただきまして、大変感謝しております。

おかげ様で、徒労に帰することなく工事着工完成することができました。

低金利融資の検討を

この度、私共建替えにあたりましては大変御世話になりました。

主婦としましては新しい家で快適に過ごしてありますが、主人の意見としまして率直に申し上げますと、不燃化促進は大変結構な事ですが、その為当初の予算をはるかに超える資金が必要となり、私共が今回頂きました助成金も大変助けになりましたが、むしろ低金利で建替え資金の一部を融資してくださるよう今後のために御検討いただきましては如何でしょうか。※

※これに対しては、区で検討中です。

工事開始がモタついて…

【良かったこと】

新築することに決めた要因の1つが、当初から一部借入をし増改築をする予定でしたが、事情により延期していたところへ、不燃化助成実施に伴い、即、建設会社から1枚のチラシが配付されたこと。

【苦労したこと】

建設会社と契約してから工事開始までの期間が長く、家族全員が精神的苦労をしたこと。
(5月契約~10月開始)

1つ1つ相談にのっていただき助かりました

この度、建替えに際し区の担当者には数々の御配慮をいただきました。前夕から、建替える時は合理的な不燃化事業をと漠然とは考えてはいましたが、今ひとつ踏切がつきませんでした。そんな時、当地が不燃化促進区域に指定され、度々の説明会で説明をうけた結果、建替える気になりました。

御多分に漏れず、建築には全くの素人で、地権の問題、建築業者との折衝等々、総てが手さぐりで、壁につき当たるたびに、相談先は何時も区役所で厚かましく何度も伺いました。その度にいやな顔もせず相談に乗って下さいり、法規の問題から建物のスケッチまで作って下さったのは大変参考になりました。工事が始まってからも建築業者は不燃化促進区域の建物だという事で、結構気を遣つて仕事をしてくれましたので、その面でもプラスとなりました。

近隣で現在建替えが行われている場所は、建物が道路沿いの家ばかりで、路地の家が現行法規の条件で建替えるには困難な問題があると思います。また、コンクリートの建物ばかりが並びますと、緑の少ない無味乾燥な街並みに変わる恐れがありますまい。このような点も御研究いただければ、今後の街づくりの御参考にもなるかと思われますが。